

民生福祉常任委員会記録

令和 7 年 7 月 1 6 日

【開催日】 令和7年7月16日（水）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前10時53分

【出席委員】

委員長	奥良秀	副委員長	吉永美子
委員	中岡英二	委員	古豊和恵
委員	前田浩司	委員	山田伸幸

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】 なし

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

事務局長	石田隆	庶務調査係長	山田寿実子
------	-----	--------	-------

【審査内容】

- 1 所管事務調査 こども誰でも通園制度及び親子誰でも通園制度について
- 2 所管事務調査 認知症施策について

午前10時 開会

奥良秀委員長 おはようございます。それでは民生福祉常任委員会を開会いたします。本日の審査内容はお手元にあるように、先日、所管事務調査として7月7日に京都府宇治市、また、7月8日には、愛知県大府市に行きまして視察を行いました。その件につきまして、（１）番、こども誰でも通園制度及び親子誰でも通園制度について、（２）番として、認知症施策について、かなり先進的なところを見させていただきました。委員の皆様から、事例としてよかったところを抽出させていただき、こういうところがよかったという御意見をお聞きしたいと思います。それではまず、（１）のこども誰も通園制度は、令和7年度から山陽小野田市も試行予定で、令和8年度から本格的にやる予定になっておりますが、

ここでは、親子誰でも通園制度というのは、かなり新しい先進事例だと思います。宇治市がメインでやってるものではなくて、京都府が主導として、そこに宇治市が共にやっという事です。行ってみて、それも分かったことなので、それについて何か意見がある方はお願いしたいと思います。

古豊和恵委員　やはり、昨今の子供さんが小さい、若い方の家庭というのは、核家族化が進んでいて、子育てを学ぶ機会が本当に少ないのではないかと考えています。なので、この宇治市のような取組は、本市でもこれから取り組んでいって、若いお母さん方、お父さん方にしっかりと子育てについて学ぶ機会を与えるという意味では、とてもいい事例ではないかなと考えています。

奥良秀委員長　宇治市の担当の方も、たしか親育ちという言葉を使われていたと思うんですけど、確かにそういったところもあると思います。その他、意見はありますか。

中岡英二委員　私も感じたことは、こども誰でも通園制度は、来年度から本格的に本市も取り組んでいくと思うんですが、この親子誰でも通園制度は、やはり県との連携の中で、こういう施策をしていくと思います。山口県の実態がよく分からないので、その辺の取組は、執行部に確認していきたいと思います。これの良さは、先ほど言われましたように親が子育てに自信を持てるとか、いろいろなパターンがあると思うんですね。親と子と一緒にいくのと、子供だけ預けるのと、親だけがサークルの中で話していくというか、その辺の実態というのが、まだよく見えません。本市で、まずどれぐらいの方が必要としているのか、宇治市でやられてるのは数字も出てましたけども、これから拡大傾向にあるということです。その辺の体制づくりもやはり難しいことだと思います。これをやったらどうかというのは、安易には言いませんけど、執行部と相談しながら、こういう親子誰でも通園制度、親がこういうのにも参加したいという要

望があれば、ぜひやっていただきたいと思いますし、現在うちにはスマイルキッズがありますから、その辺の活用状況も把握しながら執行部と話をしていけたらいいのではないかなと思います。

古豊和恵委員 スマイルキッズを利用される若いお母さん方は大変多いと思います。スマイルキッズの場合は、何月何日の何曜日の何時と、曜日や日にちが限定されていると思います。親子誰でも通園制度だったら、曜日が多分指定されないようになると思うんですよね。そうすると、お母さん方が動ける日にちに利用できるのは、すごくいいのではないかと思います。これは京都府が独自に始めたということですからけれども、別に市が始めて県に上げてもいいわけですし、これは私はすごくいい機会ではないかなと思っています。ぜひ市から提案して、県に動いてもらうこともあり得るのではないかなと思っています。

中岡英二委員 今、スマイルキッズを利用されている方が、多いんじゃないかという予想で言われましたけども、やはりこれも数字として実態をつかんでおく必要があると思います。それから、今、古豊委員が言われたように、どのような取組をしていくのか考えていくべきじゃないかなと思います。

奥良秀委員長 分かりました。スマイルキッズの利用は、多分決算か何かの委員会の資料があるとは思いますが。その辺も集めさせていただいて、執行部と所管事務調査をやる時には出しておきたいと思っています。

前田浩司委員 今回、宇治市に視察に行かせていただいて、ターゲットを親子に絞ってやっている事業で、成功されている内容を聞くことができました。これから山陽小野田市もこども誰でも通園制度の取組をするタイミングで、親子で同じような通園制度を導入しているという、一つのきっかけが今回の視察で情報入手ができたということ、取り入れる、取り入れないは、執行部のお考えだと思うんですけども、その辺をしっか

り執行部に、視察の報告としてしたいと思っております。

奥良秀委員長 そのように、いい事例があるということで、伝えていける場をまたつくります。

吉永美子副委員長 やはり皆様、大変共感しているのは同じことだと思います。親子というところには大きなメリットがあって、頂いた資料の中にも、保育士の手ほどきを受けることで、子育ての自信がつくということが書いてあります。今、全国的に言うと本当に子育てに疲れて、悲しい事件が起きています。メリットを考えると、本当に子育てされる方が少しでも悩むことがないよう、自信がつくようにという思いについては、親子誰でも通園制度を何とか導入されたいと思っております。宇治市は国に対して提言しておられるということですので、あわせて、国における検討状況が確認できれば、ぜひしていきたいという思いでいるところです。

中岡英二委員 今、吉永副委員長がメリットを言われました。私は、デメリットのことで、執行部の方がシステムの未統合による手続の煩雑化というか、こども誰でも通園制度はきちんとしたシステムがあるけども、親子誰でも通園制度は手続の煩雑化が見られるということで、その辺も実施するならクリアしていきたいと思います。先ほども少し言いましたが、今後、需要が増大するということで供給体制に柔軟な拡充な展望が、かなり広がっていくんじゃないかと期待されていますけど、やはりその辺の施設に対するそういう見込みがかなり増えていくんじゃないかと。デメリットとして、私の聞いた範囲ではそう思ったので、そういう体制を考えていくことも頭の中に入れて対応していきたいと思います。

奥良秀委員長 その他、山田委員、何かありますか。

山田伸幸委員 こども誰でも通園制度は、どちらにしても始めないといけないことなので、準備はされていると思うんです。やはり一番の懸念は、保

育士の確保が十分行き届かないと。親子誰でも通園制度は確かに非常に優れた制度だと思います。というのは、日本の昔からの在り方として、家族の中で子供を育てる、あるいは地域の中で子供を育てるというのがあったんですけど、私の地域でも子供同士の接触、親と子の接触、近所同士の接触というのがなかなか難しい条件が出てきている中で、子供と親と一緒に育っていけるのは、非常にいいと思います。あとは体制づくりですね。これがどこまでできるかなという不安があります。

奥良秀委員長 デメリットとして、体制づくりが今からつくるのが大変じゃないかというところですね。親子誰でも通園制度について、とてもいい制度ではあるなと私も思っております。メリットのほうが、デメリットよりも大きい。ただ、一番難しいのは、皆さんが言われている保育士といった事業者側の課題がかなり大きく、その辺を県と一体化して、補助金であったりとか、施設を助けるようなものが、もしできるのであれば、もっと前向きに進んでいくのかなと考えております。その辺りをまとめて、また執行部を呼んで、話をしていきたいと思います。ほかに、宇治市の親子誰でも通園制度について、御意見はありますか。

中岡英二委員 宇治市のこの実績を見ますと、令和7年度の実施施設が11施設から17施設に増加したとあります。その要因として、これまでは、こども誰でも通園制度の専任保育士とは別に、もう1人の専任保育士を置く必要があったが、今年度からはこども誰でも通園制度の担当者が兼任でき、配置の基準が緩和されて伸びていったのであろうということなので、もし本市もそういうことをする場合は、そういう制度を改革というか、保育士が兼任できるような制度にしていったら、よりやりやすくなるのではないかなと思います。

奥良秀委員長 配置基準の緩和ができるかどうかですね。その辺も確認していきましょう。その他、意見はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）では次に入りたいと思います。（2）番の宇治市の認知症施策について、

御意見を頂きたいと思います。こちら、かなり進んだことをされていますし、歴史がかなりあります。平成13年からモデル事業を開始されており、サポーターもかなりの人数がいらっしゃいますし、体制も、市民を含めて、認知症というのは誰でもなる病気ですよということが分かるような体制を取られております。この件につきまして、委員の皆様の御意見を求めたいと思います。もし、施策で何かこれはいいんじゃないかというのがあれば施策の名前を出してもらって、意見として出していただきたいと思います。

吉永美子副委員長 宇治市から頂いた資料の1ページになりますが、宇治市の特徴として、認知症コーディネーター専任として5名というところはすごいことだと思います。もともと2名だったんだけど、令和6年度から2名増員して対応しているということで、いかにその現場に即して認知症政策を進めていくかというところでは、やっぱり専任は大事なので、山陽小野田市におきましても、そういった形が少しでも進められたらと願っているところです。

奥良秀委員長 今、どのくらい兼務されてる方がいらっしゃるかも手持ちで分からないので、その辺も確認していきます。余談で悪いんですけど、第2次山陽小野田市健康増進計画の中期評価の中でも、認知症のことについては数行しか書かれていないような状況で、どれだけやられてるか、後は力を入れているかというのは、ぜひ教えていただきたいと思います。その辺は聞いていきたいと思っております。その他、何かありますか。

中岡英二委員 まず、この宇治市の認知症に対する対策として、京都認知症総合センターとか、宇治武田病院内に設置されているとか、こういう認知症患者は、物忘れ外来に対応する方、認知症と認定する病院が、すごく大きなものがありました。調べてみると、本市においては、三つの病院が対応しています。その辺の対応内容を土曜日だけにするのか、その辺

の本市の病院の実態を、物忘れ外来にどういう方が何人ぐらい外来されているのかを知った上で、その他のこちらがやられている地域包括支援センターによる相談支援とか、認知症の初期集中支援チームの設置とか、本市の認知症カフェの実態をつかみながら——さっき副委員長が言われたように、宇治市はコーディネーターが5名いるということなんですよ。本市はどれぐらいいて、どういうことをやってるのか、こういう認知症の対策は、まだ、本市は遅れているんじゃないかなと思うので、その辺を進めていくには、この委員会の中で、まず、実態をつかんで、取り組んでいくのが一番ではないかなと私は思います。

奥良秀委員長　あとは病院に関しても、市がどれだけ関与してるかというのも見えてこないなので、その辺も確認をさせていただきたいと思います。

古豊和恵委員　コーディネーターも、とても重要なんですけれども、本市の支援ボランティアも今、どのようになっているのか。本市全体で大体、各地域どのぐらいの方がいらっしゃって、どのような動きをしているのか。実際にいらっしゃるのはいらっしゃるんですけども、それが今、動いているのかどうなのか、その動きも全く見えないし、その辺りを担当課に、きちんと聞いてみたいなと思っています。

奥良秀委員長　何団体あって、年間どのような行事をされているのかが分かれば、もっと議論はしやすくなると思いますので、その辺も求めていきたいと思います。その他、何かありますか。

前田浩司委員　宇治市から頂いた資料の中の「認知症の人にやさしいまち宇治宣言」ということで、やはり一番大事なのは、細かい今の動きではなくて、スタートラインはやっぱり市全体がそういった認知症に対して、優しいまちでありますよということを宣言することが、大変必要なことではないかなと感じております。やはりこれは健康増進課とかではなくて市全体として、今後、新しい認知症観というか、認知症に関する考え方

が以前とは違ってきている部分があるので、もっとその辺を市民にPRすることが一番大切ではないかなと私は感じました。あとは細かい部分については、今、中岡委員がおっしゃられたように、まず、連携をする。やっぱり病院とか、いろいろな情報を入手する場所がたくさんないと助けることもなかなか不可能と思うので——認知症は、中身が多様化しているので、その辺についても細かく今の市の状況を確認する必要があるんじゃないかなと感じております。

奥良秀委員長 私も前田委員と同じ意見で、情報が欲しいからもらうのではなくて、逆に情報が耳に入ってくるような体制をつくっていくのが、認知症を皆さんが誤解なく分かってもらえる社会だと私は思います。その辺につきましても、今後、執行部がどのように認知症に対して施策を進めていくのかというのは、聞けるのではないかなと思っています。

山田伸幸委員 スタート時点からいうと、本来、こういった認知症も含めて、介護保険でやられるサービスのはずでした。しかしながら介護事業費があまり出てこないということで、それを受ける事業主がどんどん消えていって、そして、地域の力を借りる、介助していく、家族の力を借りるという方向に行かざるを得なくなって、その結果、家族も含めて支援をしていくということが必要になっているのが、今の私たちの現状になっています。ですから、その中でできることはかなり限られてくるんですけど、そういった介護の現状を踏まえて、市が今、こういった認知症で苦しんでおられる本人あるいは家族をどのように支えていくか。そして今、地域ごとにいろいろな認知症カフェ、あるいはそういうボランティアを継続しておられる皆さんがおられるので、そういった方々に対して、やっぱりもっと熱のこもった支援がないと。それと、今ある特定の人物の努力によって継続されている例が多いので、地域全体がそういう認識を持って取り組まざるを得ない状況の中で、やはり市としてそれをしっかり支援していく構えが必要だと思っています。そういった認識を私たちも共有していかなくては、この問題は解決していけないと考えて

います。

奥良秀委員長 分かりました。中岡委員、ちょっと教えていただきたいんですが、さっき病院が三つあると言われたんですけど、その中で、市民病院は入っていましたか。

中岡英二委員 調べた紙を忘れてきたんですけども、一般のクリニックだったと思います。

奥良秀委員長 そうなんですね。私も、中核である市民病院も、認知症の、何かしら情報発信をする場所としては、公立病院としての役目はあるのではないかと思いますので、その辺もまた聞いていきたいと思っております。

中岡英二委員 私の調べた資料が、SNSで調べた範囲なんですが、やはりこれは市民病院に確認を取って——もしかしたらされているかもしれないです。

奥良秀委員長 了解しました。されていれば、どういったことをされているかというのを聞きます。

中岡英二委員 市民病院は、そういう認知症の核となって、今、されているクリニックの3者と共同してやられるべきだと思います。その辺、また後日確認していければと思います。

奥良秀委員長 確認します。あとは今回視察に行ってみて、もう一つのところもそうなんですけど、GPSのことがどうなのかなあというのがありました。結局のところはそんなに利用率は伸びてないと。私としては意外な結果だったんですが、その件につきまして皆さんどう思われますか。

山田伸幸委員 これは、実質的に本人にGPSを持たせるというのが非常に難しいんですよ。先日も早朝に地域の皆さんが探し回っておられたんですけど、「GPSをどうしてたの」、「いや、置いてある」ということでした。やはり、常に身につけさせるという難しさがあって、これがなかなかうまくいってないというのが現状だと思います。

奥良秀委員長 そうですね。

吉永美子副委員長 私は決して悪い政策ではないと思うんですよ。ただ、そのやり方がどうやったら本当にその必要な方にきちんと生きる形で政策としてできるかということは本当に工夫をしていかないと難しいので、なかなか現実として進んでいないのかなあとと思います。だから市としてはGPSの機能についてどう評価しているかということを知りたいのと、あと具体的なやり方として、例えば、はだしで出られたらもう駄目だけど、日頃よく履く靴の下に入れるというやり方もあるので、取組方によっては、生きる政策になる可能性も秘めているのかなとは思っています。無駄ではないと思っています。

古豊和恵委員 私が以前、別の委員をしているときに、認知症の方が家からいなくなって亡くなられるケースをいろいろ調べたら、自転車で出られる方が多いそうなんですよね。徒歩の場合は見つかるケースが多いんですけども、自転車では、普通の人考える以上に遠くに行かれるそうなんです。そして、見つからないケースも多々あると。だから今、言われたように本人が気がつかないうちにちゃんとGPSをつけられるようにしておかないと、本人が結局どこに行ったか分からないまま亡くなって見つからないんですというケースが多いということを聞きましたので、やはりそういうことがないように家に帰れるようにというのは最低限するべきではないかなとは思っています。

中岡英二委員 宇治市の利用状況は100人程度という数字が上がってます。

これが多いのか少ないのかよく分かりませんが、私もGPSをつけることには賛成です。これが伸び悩んでいる原因は、ほとんどのケースでよく行く場所が決まっており、GPSなしでも宇治市は見つかることが多いということがあります。それとセコムと見守るタイプがあるということを言われてましたので、GPSだけに頼るのではなく違った方法もあるのではないかなと思います。

奥良秀委員長 その他、御意見はありますか。あとはGPSの場合も補助金をどういうふうに出していくのかと、要は執行部のほうの考えもあるでしょうから、その辺も聞いてみます。今、古豊委員から自転車という話がありまして、1人に1個も2個もつけると、いろいろとやっぱお金もかかるかなというのがあります。どういうふうにやればいいのかっていうのは、またこちらのほうも考えますが、執行部のほうも、もし取り入れるのであれば、どのようにというのをいろいろ考えていただきたいと思います。

古豊和恵委員 宇治市では、認知症の方の仕事について、企業版れもねいど、協力会社ということでやられてるそうなんですけど、本市ではそういうのがあるのかなのかというのも私はよく存じ上げなくて、やはり認知症の方も、年齢の幅は広いんですよね、若い方もいらっしゃいますし。だからそういう方たちがもし働く意欲があるのであれば、やはり働く場所が必要ではないかなと思っていますので、本市の動きを聞いてみたいと思っています。

奥良秀委員長 そうですね。障害のある方はいろいろなところというのはあるんですが、認知症という、そこだけの側面では調べたことがなかったので、そういったことがどうなのかというのは確認させていただきたいと思います。認知症カフェとかで御意見のある方はいらっしゃいますか。

中岡英二委員 宇治市の認知症カフェの実態です。令和6年度の延べ参加数が

860人と市内全域でやられている。まずそこら辺が山陽小野田市はどんなのかなと。認知症カフェをされている実態がどの辺まで広がっているのか、まず知りたいと思うし、その認知症カフェの中でどのような相談事があるのか、どのような方が参加されているのかというのも、執行部に実態を聞いてみたいと思います。

奥良秀委員長 宇治市は圏域と言って、八つの圏域で、個別にやってると、総合的に1か所に集めてやっているのと、いろんなやり方をやられましたので、そういったケースをやられているかどうかを確認させていただきたいと思います。あとは、先ほど医療機関の話が出ましたが、医療機関については、どのようにお考えですか。かなり医療機関同士が市を中心に情報交換をされているんです。

古豊和恵委員 認知症の方に関しての本市の取組が、全くもう見えてきてないので、やはりその辺りもそれこそ市民病院も交えて一度聞いてみたいなと思います。

前田浩司委員 宇治市から頂いた資料の3番目の項目なんですけれども、やはりこの中には病院とか大学とか、もしくは京都でいきますと、この認知症総合センターとか、いろいろそういう窓口がしっかり出来上がっていると私は感じております。やはり今の本市の実情、重複しますけれども、病院を始め、いろいろな体制づくりについては確認しないといけないのかなと思っております。

奥良秀委員長 地域の強みということでは言われました。本市も、地域の強みといたら、山口東京理科大学があります。その辺との連携を模索はできるのではないかと思いますので、その辺も執行部に確認していけばいいのかなと思ってます。そのほか、今、医療のほうは終わりました。古豊委員から企業のこととも言われましたが、あとはよかったですね。市長が小児科出身というのはすごいなと思いましたけど、ほかはよろしいで

すかね。（「なし」と呼ぶ者あり）なければ、2日目の大府市の認知症施策について意見を求めたいと思います。こちらは、悲しい事故があったから、かなり加速度的に動いております。あと、啓発としましても、認知症を差別しないということで、徘徊という言葉を一歩きというふうに、やはり配慮を持って言葉を使われているのが、私といたしまして、印象に残っているところです。ここも認知症の啓発は、すごく取り組まれているんですけど、例えば、サポーターで、たしかこれは、2万人のサポーターにチャレンジされて達成されて、全学校で中学1年生に、このサポーターの講座を受けていただいているんですけど、すごいなというところがあったんですが、そのサポーターについて何か御意見はありますか。

中岡英二委員 認知症サポーターの養成講座を開催したりとか、地域住民を対象にした、そういう認知症に関する正しい知識や理解が深まっていると思います。そうした中で認知症の人や家族を温かく見守る方、認知症サポーター2万人をつくり上げているのは、すごいなと感じました。

吉永美子副委員長 令和5年度でしたか、国が法律をつくって、それで認知症にかかっている本人の意見も含めて、計画をつくっていくということが出ていたと思うんですね。そういうところで確認させていただくと、もう国が動くずっと前から認知症にかかっておられる方を含めて、推進されていること自体が本当すばらしいことをされてきたんだなって。もう御本人の意見も入れていくということが当たり前じゃないのという感じだったのかなあと。そういう点で私は大変感銘を受けたとともに、条例というのは、理念条例にはなるかもしれませんが、やっぱり条例があって、そこを具体的に進めてきたっていう歴史が、大府市においては、条例自体が大きな位置づけとなっていると認識しています。やっぱり認知症不安ゼロのまち大府ということで、本当に、ここに住む方々が、自分がいざ認知症になったときには大丈夫だよなという、もうそういう雰囲気自体ができているんだろうと思うと、いかにその不安を取り除いて

いくかという政策を進めていくことが、私は大変大事だなと実感いたしました。

古豊和恵委員 先ほど中岡委員が言われましたけれども、本市は物忘れ検診を行う病院が3か所、こちらの大府市では20か所のクリニックで、一次検査の場合は無料であると。そうすると、検診が受けやすいのではないかなと思うんですね。二次検査も補助があるということです。本市もその辺りを、もう少しきちんと制度的につくってほしいなと思います。

奥良秀委員長 都市の規模は違うので、クリニックの数を増やすというのはなかなか難しいかもしれませんが、一次の無料検査は、施策としてどうなのかというを訴えていくのはいいのかなと思っております。今、医療、介護のことで、その次が見守り体制ですね。今、当市で、認知症で独り歩き等々で行方不明になった場合は、メールで来ますけど、今回見させてもらったのが、顔写真を前もって登録しておけば、あとは救急とも連絡を取り合って、もしかしたらもう病院に運ばれてるかもしれないという行き違いがないような体制もできているということで、かなり見守り体制は進んでいる。あとは、搜索模擬訓練をされているということで、大府市の担当委員長も、「僕もやっていますよ」と言われていて、見守り体制ってすごいことをやられてるなと思ったんです。あともう一つが、認知症のヘルプマークで、もう全国で売っていますよということで、マークもつくられておられました。この件につきまして、全体についてどのような御意見があるかお聞きしたいと思います。かなり進んでいるので。

古豊和恵委員 先ほど委員長が言われた行方不明時の写真は、重要ではないかなと思うんですね。メールでは本当に、服装はこんな感じですか、何歳ぐらいですか、もう簡単な情報しか流れてこない。前もって家族の方も、認知症であると分かっているわけだから、今回は危険だなと思えばその写真を送付するのは、とても重要なことで、受ける側として

も、こういう方なんだなというのが認知しやすいので、ぜひ、本市も、写真を送ってもいいですよという方は、写真も送っていただけたらと思います。

奥良秀委員長 プライバシーとかそういったことを配慮しながら。

古豊和恵委員 御家族がいいですよと言えば。

奥良秀委員長 できるかどうかは、また別の話として提案をさせていただきたいと思います。あとは、物忘れ検診等々の話はもう出ましたね。一次検診は無料ということで、この辺の話をしていきたいと思います。その次に、プラチナ長寿健診等々の御意見を頂きたいと思うんですが。

中岡英二委員 プラチナ長寿健診で、私は行く前に、この健診があるから特定健診の受診率が60%を超えているというのを聞いて、このプラチナ長寿健診があるから多いのかなと思っていたんですけど、いざ聞いてみるとそうでもない。もともと受診率が高くて、プラチナ長寿健診があるから特定健診をしたということではないというのにびっくりしました。プラチナ長寿健診があるから、特定健診の上乗せがかなり進んだのかなと思っていたんですけど、ちょっとその辺認識がなかったなと思っています。もともと特定健診の受診率が高かったということですよ。

奥良秀委員長 あとは勧奨の仕方がうまいのかなというのがありました。

吉永美子副委員長 だからこれについては、直接大府市にお聞きした中で、言われていたのが、そういったプラチナ長寿健診を受けることによって、特定健診を受けようという人も中にはおられるかとは思いますが、大きな理由として、やはり勧奨を行ってきましたということをおっしゃいました。しかしながら、健診を受けることについての安心感という部分では、山陽小野田市にない、こういった長寿健診があること自体が市民

にとっては、より安心につながると認識をしているところです。山陽小野田市にない取組なので、かなえば、日頃してもらえない、認知機能検査というのが——市に聞いたときに、通いの場に行ったら、全部という意味じゃなくて、することがありますと、ほかの項目だったかもしれないが——全く何もしていないという認識は持っておりませんが、そういった特定の場合じゃないとできないのではなくて、いわゆる75歳以上の方々みんなが希望したらできるというやり方は進めるべきだと。こういう長寿健診のような特定健診プラスという部分は進めるべきだと強く思いました。

奥良秀委員長 その他、大体今、全てのところに来ましたが、何かありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）

中岡英二委員 先ほども言いましたけど、山陽小野田市の認知症の高齢者数が、現在どれぐらいの数がおられて、高齢化率、そして今後どれくらい増加するのか、まずその辺のデータを知りたいというのが一つです。それと認知症ケアパスの現状です。市としては認知症の疑いがある診断とか医療とか介護とか生活支援までの流れを、どのように、どれぐらい整備されているのか。不足してるのはどこなのか、その辺も知りたいと思います。それと、今あるサービスの利用状況、地域包括支援センターの相談窓口、どれぐらいの方が相談に来て、適切なサービスがされているのか。もちろん、その中には市の地域包括支援センター、医療機関、介護サービス事業などの利用状況も含まれますけど、その辺の市の状況というのをまず知りたいなと思います。それと、認知症を支える地域住民ですね。私も、本山地区のある介護施設と一緒に、地域の人らと認知症の方の声かけ運動というのを五、六年前からやっています。地域の中では、本山地区だったら認知症になっても多少は声かけて助けてくれるかなという認識がありますので、そうした地域との関わり合いを広げていくような施策を市もやっていただければなと感じております。それと、認知症当事者や家族、地域住民、医療、介護施設など、現状の困り

事を、ちょっと時間がかかるかもしれませんが、ヒアリングして、アンケートを実施し、どういうことに困っているのかなという実態を知りたい。まずはその実態を知った上で、大府市との具体的な取組ですね。ここでは認知症初期集中支援チームの機能とか認知症カフェの運営方法、サポーター養成講座の実施の頻度や内容がかなり進んでますので、その辺を本市としても比較して、できるだけこの大府市に近づけるような認知症対策をつくっていただければと思います。

奥良秀委員長 いい例で、宇治市のれもんパスがあったじゃないですか。要は、これを見れば、認知症になったときに迷わずに、体制に入っていける。もうこれを見れば本当にすぐ分かるんですよ。こういったものがあるからすぐつくれというのは、またおかしい話なんですけど、こういった体制があるのかなのか、また確認しながら、こういういい事例があるので、お伝えしながら考えていただければいいと思います。今、中岡委員から、データについて確認してほしいということがありましたので、確認させてもらいます。ちなみにですが、私も、行く前に資料恵与しまして、認知症のニーズということなんですけど、全ての認知症の方を調べるのは難しいんですけど、要介護認定者のうち、認知症の人数ということで資料がタブレットの中にも入っています。令和5年度末で1,651人の方がいらっしゃいまして、多分この1,651人は、少ない人数だと思っております。要介護認定されている方だけなので、初期のMCIの方であったりとか、そういった方たちを入れると多分もっと多いのかなあと考えております。市の施策としましても、この認知症というのはやはり考えていかないといけない時期に入ってきてて、あとは高齢者率も35.2%と、令和7年3月31日現在のデータを頂いております。やはり大府市、あとは宇治市よりもかなり高齢化率が進んでいます。今回、先進地を見させてもらったときに、うちは早くやらないと、まずいなど私は思っておりますので、またそのように進めさせていただきたいと思います。今、宇治市と大府市の話をしてもらいましたが、総合的に何か認知症につきまして、その他で意見がありますかね。（「なし」

と呼ぶ者あり）今日、出た意見をまたまとめさせていただいて、執行部との委員会を開く際には、今言われたデータをそろえさせていただいて、委員会を開きたいと思いますが、よろしいでしょうか。今後の流れにつきましては、どのようにお考えでしょうか。

中岡英二委員 所管事務調査等で執行部の意見を聞くのもいいんじゃないかな
と思っております。

奥良秀委員長 その他、委員の皆様は御意見はありますか。

吉永美子副委員長 それは大賛成ですし、また事前に宇治市、大府市それぞれ
質問事項を出した中には執行部からの質問も入ってますので、頂いた
資料を事前に執行部にお渡しいただきますよう、事務局お願いいたしま
す。

奥良秀委員長 事務局よろしいでしょうか。（うなづく者あり）では、そのよ
うに進めさせていただきたいと思います。また、所管事務調査の日程等々
については委員長一任でよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）
日程は私のほうで進めさせていただきまして、決まり次第、委員の皆様
にお伝えしたいと思います。今日の委員会につきまして、ほかに何か御
意見ありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）以上をもちまして民生福祉
常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前 10 時 53 分 散会

令和 7 年（2025 年）7 月 16 日

民政福祉常任委員長 奥 良 秀